



茨城ワイズメンズクラブ
2020年度-2021年度
3月報 Vo 1.151

強調月間テーマ

BF・メネット

THE Y'S MEN'S CLUB OF IBARAKI CHARTERED 2006



国際会長主題.....「命の川を信じよう」
アジア太平洋地域会長主題.....「変化をもたらそう」
東日本区理事主題.....「変化をたのしもう！」
関東東部部長方針.....「学びと親睦を糧に外へ向かおう！」
茨城ワイズ会長主題.....「楽しくやれる方法を考えよう」

<3月例会プログラム>

と き:2021年3月5日(金)
19:00~21:00

と ころ:オンライン開催(zoom)

司 会:熊谷 光彦

開会挨拶と点鐘:熊谷 光彦

ワイズソング:

ワイズ信条:

- 1、自分を愛するように
隣人(りんじん)を愛そう
- 1、青少年のために YMCA に尽くそう
- 1、世界的視野をもって
国際親善をはかるう
- 1、義務を果たしてこそ
権利が生ずることをさとうう
- 1、会合には出席第一
社会には奉仕第一を旨としよう

今月の聖句・祈祷:

報告:茨城 YMCA リーダー

「北関東リーダー研修会報告」

ハッピーバースデイ&

おめでとう結婚記念日:

スマイル:

茨城YMCA報告:大澤 篤人

閉会挨拶と点鐘:熊谷 光彦

☆今月の聖句☆

あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。

マタイによる福音書 5章 14~16節

★巻頭言★「サハラの入り口へ」

村田あつし

2000年代の前半、YMCAの学生リーダーたちというのは、休みともなればキャンプの合間をぬってバックバックをかついで海外に出かけるメンバーが多かった。大学を休学してミャンマーや雲南省などに留学したり、1年をかけてユーラシア大陸を横断したりした先輩もいた。

僕もまたそんな人たちに感化されて自然と海外に出た。いまはもう休刊してしまった「AB-ROAD」という電話帳のような雑誌をめくっては格安航空券の情報を漁り、アルバイトで貯めたお金を握って、つくば市内の旅行代理店に足を運んだ。買うのはもちろん往復のチケットだけだ。

何度もアジアには行ったが、一度だけアフリカに足を向けた。とはいってもスペインからモロッコに渡ったくらいなので、ほんの端っこをかじったくらいだ。そのあたりが自分自身の勇気の限界だったのである。

格安航空券でパリに降り立ち、そこからブリュッセルに移動してLCCでスペイン南端へ。地中海沿岸の陽気な雰囲気味わってから、ジブラルタル海峡を渡ってモロッコのタンジェへと向かった。海峡のイミグレーションではなぜか「お前、おしりに大麻を隠しているだろう」とあらぬ疑いをかけられ、パンツを脱いで潔白を証明する羽目になった。国境の検査官はげらげら笑っていたから、からかわれたのだろう。

モロッコに入ってから、もっぱらローカルバスでひたすら南端のメルズーガを目指した。シャウエン、フェズ、メクネス、といった趣のある街に少しずつ滞在しながら、いよいよアトラス山脈を超えていく。モロッコの食事はトマトや玉ねぎ、米をベースにしたモロカンサラダ、トマトベースのスープのハリラ、分厚いパンに肉を挟んだパスティラなどなど、日本人でもとっつきやすい

メニューが多い。もちろんケバブも美味しいし、ミントティーで甘ったるいお菓子を食べるのも良い。途中、ナイトクラブで踊ろうとしたら現地のオバちゃんにもものすごく求愛されてしまい宿までの真っ暗闇の道を走って逃げ帰ったり、食堂で出くわした兄ちゃんと宗教論争をしたり（ムスリムの人にこの議論をするのは危険と知らずに…）。途中の街ではちょうどアテネオリンピックの女子マラソンの日で、異国の地で奮闘する野口みずきさんを見て現地の人に祝福してもらったりもした。

そうこうして山脈を超えると、緑豊かな世界から赤茶けた大地に変わる。サハラ砂漠の入り口なのである。砂漠といっても、ゴロゴロした岩が転がっていて、砂っぽい感じはない。

最後の頃はバスも通っておらず、ジープの相乗り。舗装されていない土の道を時速 140 キロくらいでぶっ飛ばして、ようやくメルズーガに着いた。ここには本物の砂の大砂丘があるのだ。この砂はオレンジ色をしている。ラクダがのんびりと歩いている。ここにはベルベルの民が暮らしている。すごくなれなくなくて陽気な人たちだ。髪の毛も赤かったり、金髪だったり、黒かったり…。彼らはどんな出自なのだろうか。

メルズーガ大砂丘のすぐ先はアルジェリアなのだが、彼らは昔から国境の概念などなく暮らしてきたのだろう。砂漠はなによりもとても静かである。「ここで音もなく倒れても、誰にも気づかれずに朽ちていくのだろうか」などと思いながら静かに 3 日ほど過ごした。本当は 1 週間くらい滞在するつもりだったのだが、長くいると砂漠の雰囲気呑み込まれてふらふらと命を投げ出してしまいそうで、それはマズいと感じ、北に戻るクルマに乗った。ベルベル人のおっさんたちが悲しんで、なにか餞別をくれと言うので、履いていたジャージを渡した。

そのようにしてほうほうのいで帰国し、大学最後の夏休みは終わっていった。

【茨城クラブ 2 月例会報告】

2 月例会は前月に引き続き zoom を用いたオンライン開催となりました。嬉しいことに、東京ひがしクラブからは金丸さまが、東京たんぽぽクラブからは小原さまがご参加くださいました！ オンライン環境が整ってきたこと、またオンラインミーティング環境が浸透してきたこともあって、久しぶりに顔を出してくださったメンバーもおられ、最近ではいちばん参加者の多い楽しい会となりました。

2 月ブリテンに巻頭言を記してくださった片山ワイズが「赤い大地の冒険～エアーズロックの思い出～」と題して、その巻頭言のお話の続きを語ってくださいました。



1987 年春のオーストラリア旅行のお話は、グーグルマップやグーグルストリートビュー画像に当時の写真を加えて作成してくださったプレゼン資料のすばらしさにより、聴き手も一緒に旅をしているかのような臨場感がありました。



赤茶けた大地にまっすぐに伸びる道路、自転車で走るすぐそばをトラックトレインが轟音を立てて時速 120km で通過する恐怖、立ち漕ぎでやっとのこと進めるくらいの向かい風、摂氏 40 度の暑さと限られた飲料水とのせめぎあい、好戦的なハエと戦いながらの食事などなど、想像を超える大冒険の話に参加者全員が夢中で没入することとなりました。

冒険の果てにたどり着いたウルル（エアーズロック）には、乗ってきた自転車をかついで登ったこと、その場所に十数年を経て新婚旅行で再訪したことも含めて、味わいのあるお話でした。



そして最後に、道すがら手を差し伸べてくれた人た

ちのこと、現地で出会ったたくさんの人たち、当時は自分の力だけでやり遂げたと思っていたけれど日本で心配し続けてくれた（と後年になって聞いた）父親のこと、それら多くの助けがあってこそ達成できた冒険なのだとはっきり分かったと仰っていました。



このオーストラリア行きが初めての海外旅行だったというのには皆が驚かされました。その後もネパール、ウイグル自治区、アフリカキリマンジャロなど、さらなる冒険に挑まれたとのことで、是非またそれらのお話も聞いてみたいと強く思いました。

2月例会（リモート開催）出席状況

会員：7名（稲本、大澤、片山、金子、熊谷、村田、柳瀬）、メネット：0名、スタッフ：0名、リーダー：0名、ゲスト：2名、出席総数：9名、在籍者会員数：9名、会員出席率：78%

【事務報告】

事務連絡会報告

2月例会開催に先だって事務連絡会を5日にzoom開催いたしました。茨城クラブ役員が集い、以下の協議を行いました。

- 1). 関東東部各種献金への対応
- 2). 東日本区メネット献金への対応
- 3). 北関東 YMCA リーダー養成募金への対応
- 4). 会計残高の確認と来年度に向けての財務見直し
- 5). 次期役員人事
- 6). C S 会計残高の確認と今後の活動見込みについて
(書記 村田)

会計報告（2月12日～3月4日）

前月繰越金	13,537
振込手数料	▲440
次月へ繰越	13,097

ワイズメンのみなさまにおかれましては引き続き会費の前納について、ご協力を賜りたく願います。
(会計 柳瀬)

【茨城 YMCA 報告】

2月の報告

- 1日(月) 早天祈祷会(12月、1月に引き続き中止)
- 2日(火) ウェルネス事業部担当者会
- 5日(金) 全国 YMCA 保育事業部会
- 5日(金) 茨城ワイズメンズクラブ例会(zoom)
- 6日(土) 理事会(みどりのセンター新施設)
- 7日(日) 高学年デイキャンプクラブ「トムソーヤ」(中止)
- 9日(火) リソースモビリゼーションチームミーティング
- 10日(水) 中期計画委員会(zoom)
- 13日(土) 未就学児デイキャンプクラブ「わんぱくクラブ」(中止)
- 13日(土) 学童保護者会(書面)・新入生オリエンテーション
- 15日(月) 主任会
- 19日(金) 競売入札結果判明
- 20日(土) 小学生デイキャンプクラブ「つくわいクラブ」(中止)
- 23日(火) 茨城県独自の県内全域への緊急事態宣言解除
- 24日(水) ピンクシャツデー
- 27日(土) 冬のオーバーナイトキャンプ1日目(延期)
- 28日(日) 冬のオーバーナイトキャンプ2日目(延期)

3月の予定

- 1日(月) 早天祈祷会（3カ月ぶりの開催）
- 1日(月) 北関東野外担当者会
- 2日(火) ウェルネス事業部担当者会
- 2日(火) 幼保園卒園遠足
- 5日(金) リソースモビリゼーションチームミーティング
- 5日(金) 茨城ワイズメンズクラブ例会
- 6日(土) Amazon Future Engineer
- 7日(日) 高学年デイキャンプクラブ「トムソーヤ」
- 9日(火) 幼保園遠足
- 10日(水) 中期計画委員会
- 13日(土) 未就学児デイキャンプクラブ「わんぱくクラブ」
- 13日(土) Amazon Future Engineer
- 15日(月) 主任会
- 19日(金) 幼保オリーブ卒園式
- 20日(土) サイクリングプログラム

- 21日(日) 小学生デイキャンプクラブ「つくわいクラブ」
- 23日(火) 幼保園一日入園
- 25日(木) スプリングスクール開始
- 27日(土) 障がい児者自立支援「たんぽぽクラブ」

(連絡主事 大澤)

【編集後記】

例年よりも暖かい2月でした。首都圏の緊急事態宣言も出口が見えてきたところでしょうか。

巻頭言には、学生の頃の旅行のことを思い出して筆をとってみました。前回の片山ワイズの冒険譚と比べればちょっとこじんまりとしています。それになにか自分らしさがにじみ出ていて悪くないと思っています。

キリスト者ではないわたしですが、自分自身の生まれもった本性として、いろいろなよからぬものを抱えてしまっている人間だという自覚があります。よからぬものもまた、自分を形づくっている要素として、等しく大切にしていきたいと思う今日この頃です。

それでは、来月の編集後記ではまたもう少し前向きなことが書けますように。

(書記 村田)

茨城県知事による茨城県独自の県内全域への緊急事態宣言が解除された2月23日の翌日はピンクシャツデーでした。

ピンクシャツデーは2月の最後の水曜日なので、これまではいつもお休みの日ではないので、この日にピンクの何かしらを身に着けて出かけたということは一度もありませんでした。しかし今年は、なぜか娘たちにショッピングへの同行を強いられ、イオンモールへ出かけることになりました(せっかくだからピンクの、それもショッピングピンクのセーターを着て出かけました)。彼女たちの思惑は、長女の息子1歳4か月を私に預けて姉妹で久しぶりのショッピングを楽しみたかったからなのでした。というわけで私は、ちいさな坊やをキャラクターのついたカートにのせていったり来たり、カートに飽きたとなると抱き上げていったり来たり、ショッピングモールを2時間以上歩き回りました。

YMCAにつながる皆さんならよくご存じのこのカナダ発祥のイベント、一般の人たちの認知度はいかにばかりのものかと、ショッピングモールを訪れていたたくさんの人たちを観察しておりました。しかし、ピンクの着衣どころかピンクのバッグもピンクのブレスレットもピンクのイヤリングも見つけられな

い・・・なんと、ピンクを身に着けている人を一人も見えませんでした。

茨城YMCAに行くといつも、毎年この日の数週間前から壁にはピンク色のポスターがあり外にもT型のピンク色の掲示物が出されていて、それらを3月になっても見かけていたのに、一般の人たちの知名度はいまひとつなのではないでしょうか・・・。

さて来年は2月になったらすぐにFB友だち(あまり多くないのですが)にピンクシャツデーの協力依頼をしてみようかな。

(会長 熊谷)



2/27 偕楽園のすぐ近く千波公園は梅満開でした